

校長室便り

令和2年8月31日(月)No. 8
土佐清水市立下ノ加江小学校
校長 宮地 由美
Tel/Fax 0880-84-0031

本校では、高知新聞の「こども記者だより」のコーナーや、「声ひろば」のコーナーに記事やカットを投稿しています。これまでも、たくさん記事が掲載されました。また、掲載された記事を読んで、お褒めの電話をいただいたり、「自分も同じ考えだ」と手紙をいただいたりしたこともありました。このように、読まれた方が、子どもたちの考えや思いを受け止めて下さったことをとてもうれしく思っています。先日【8月26日(水)】は、こども記者だよりに、祥世くんの投稿記事が掲載されました。

これからも友達と

5年 早川 祥世

1学期をふり返ると、新型コロナウイルスのえいきょうで、今までの生活が変わっていきました。学校に行くときにはマスクをつけているし、5年生での楽しみだった交流学習では、1日泊まる予定が泊まらずに帰ってきました。ぼくは「コロナウイルス、はやくおさまって」といつも思います。

今までとはちがい、班で話し合って意見を出したりすることもできなくて、とてもざんねんです。でも、ぼくたち5年生は、コロナウイルスをのりきろうという思いで、前より協力するようになりました。それに、5年生にしかないひみつの力みたいなものもあると感じるので、ざんねんなことばかりではありません。

ぼくを助けてくれるそんざいは友達です。友達はぼくを助けてくれるだけでなく、元気づけてもくれます。

ぼくは、テストで簡単なミスをするし、文章をかくことが苦手です。でも、5年生でこの苦手をこくふくして6年生になりたいです。

これからも友達とがんばります。

祥世くんの記事を読むと、「学校での学びとは何か」ということを考えます。新型コロナウイルス感染症のため、全国ではオンライン授業を行うところもあったり、zoom会議になったりと、ICTが活用される場面が増えました。しかし、「学校」は友だちと共に学び、協力し合い、成長していく場所です。子どもたちがいてこそ「学校」です。そのことが、祥世くんの文章には書かれていて、読んでいてとてもうれしくなりました。自分たちで声をかけ合い、協力し合っって学校生活を送る姿、休み時間には元気に外で遊ぶ姿が多く見られる5年生。班の話し合い活動は少なくなっても、その分、みんなで話し合い、考えています。“5年生にしかない秘密の力”は、どんどんと強くなっていると感じます。5年生だけではありません。“秘密の力”は、“下ノ加江小にしかない秘密の力”でもあるかもしれませんね。

新型コロナウイルス感染症のため、これまでとは生活が変わっていきました。マスクはもちろん、朝の検温、消毒……。安心して学べるように様々なことを考え取り入れてきました。ご家庭でのご協力、本当にありがとうございます。子どもたちを取り巻く社会情勢は決して良いものではありません。しかし、不平・不満を言っても何も変わりません。「With コロナ」で生活様式を見直しながら、前向きに保護者と学校が連携しながら子どもたちの成長に向け取り組んでいきましょう。

暑い日がこれからも続きます。マスクについては、熱中症にも配慮していきます。また、体育についても配慮しながら取り組んでいきます。今後ともご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

